

# 座光寺と呼ばれたわけ

座光寺という名前をよくみると、「座る」「光る」「お寺」です。「ざこうじ」のじは寺か路か、また違った見方があるかも知れません。座光寺の場合は「寺」にかかわりが深いといわれてきました。どんなお寺があったのか、どんな言い伝えがあるのか探ってみましょう。

## いつ頃から「ざこうじ」と呼ばれたか

いつ頃から「ざこうじ」といわれていたのかはよく分かりません。座光寺と書かれた一番古い書き物は、760年ほど前の鎌倉時代のものがあります。座光寺氏という豪族が「ざこうじ」に居ました。「ざこうじ」に住み着いたから「座光寺氏」と呼ばれたといわれます。江戸時代以前には、市田郷座光寺といわれたこともあります。

「ざこうじ」と呼ばれるようになったわけは、二つあるといわれています。

## 寂光寺という古い寺があった

都で書かれた『三代実録』という歴史の本に、奈良時代から平安時代にかけて、信濃定額五寺の一つ寂光寺という寺が座光寺あたりにあったと書かれています。座光寺では、古い瓦が如来寺境内・上野金井原・古瀬平・薬師垣外などから発見されていますが、まだ寺の跡は見つかっていません。

「寂光寺」という呼び方が、長い間に「ざこうじ」に変わったという説であります。そこで、この地域を「座光寺」と呼ぶようになったといわれています。



如来寺境内・金井原・古瀬平の古瓦

## 座の光る寺があった

奈良時代（1300年ほど前）には座光寺あたりは宇沼村麻績の里といわれました。麻績の里の住人本田善光とい

う人が、阿弥陀様を迎えて臼の上に祀ったという伝説があります。41年間座光寺に祀られた阿弥陀様は長野の芋井の里へ移されました。里人が、阿弥陀様の台座の臼を身代わりとして拝んでいたら、この臼が自然に光りを放ったと伝えられています。そこで、里人は新しい寺を建てて、「座の光る寺」=座光寺=と呼んだと『元善光寺縁起』に書かれています。この寺の名前が、地域の名前に変わったと伝えられています。阿弥陀様の台座に使われた臼が、座光如来寺の宝物殿に残されています。

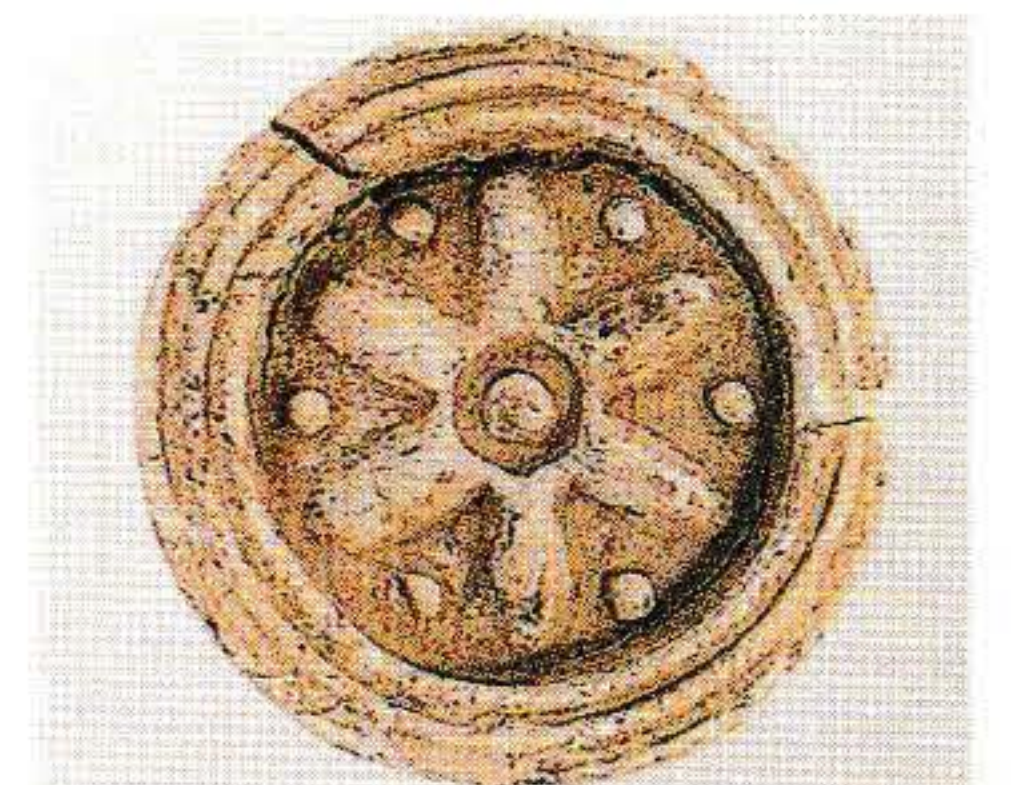


座光の臼

このほかに「ざこうじ」と呼ばれるわけがあるかも知れませんがよく分かりません。座光寺は寺にかかわる地名の多い所でもあります。寂光寺・座の光る寺のほかに、恒川には「せんざつ寺屋敷」「阿弥陀垣外」、畦地や上野に古い庵寺があったとも伝えられています。仏様にかかわりの深いところであったことが分かります。



のきまるがわら  
軒丸瓦  
下市田古瀬遺跡



きたのはいじ  
岡崎市「北野廃寺」  
出土軒丸瓦



かないばらかわらかまあと  
座光寺「金井原瓦窯址」  
出土軒丸瓦

(今村善興)